

2015年度決算

投資家様向け説明会

2016年4月27日
オムロン株式会社



EARTH-1STAGE

発表のポイント

■ 2015年度

- ・ 営業利益は前回見通しを達成
- ・ バックライト事業、パワコン事業の収益構造改革は下期で実施済み
- ・ 制御機器事業で今後の成長に向けた事業基盤を強化

■ 2016年度

- ・ “収益構造の再構築” と“自走的な成長のためのエンジン作り”
- ・ 制御機器事業、ヘルスケア事業の事業成長を加速
- ・ 同時に、売上総利益率の改善に拘る

■ 制御機器事業の中長期成長戦略

- ・ 「*i-Automation*」による新たな価値の提供

目次

1. 2015年度実績 P. 3

2. 2016年度計画 P. 11

3. 制御機器事業の中長期成長戦略 P. 22

参考資料 P. 29

2015年度実績

2015年度実績



2015年度実績

営業利益は見通しを達成

(億円)

	2015年度 見通し※	2015年度 実績	見通し比・差	2014年度 実績	前年度比・差
売上高	8,350	8,336	△0.2%	8,473	△1.6%
売上総利益 (売上総利益率)	3,235 (38.7%)	3,208 (38.5%)	△0.8% (△0.2P)	3,326 (39.3%)	△3.5% (△0.8P)
営業利益 (営業利益率)	620 (7.4%)	623 (7.5%)	+0.5% (+0.1P)	866 (10.2%)	△28.1% (△2.7P)
当社株主に帰属する 当期純利益	475	473	△0.4%	622	△23.9%
USDレート (円)	120.5	120.2	△0.3	110.0	+10.2
EURレート (円)	132.0	132.2	+0.2	138.7	△6.5

※2016年1月28日開示

事業セグメント別 売上高

外部環境の影響を受けやすい事業^{※1}を除くと、増収を達成 (+4%)

(億円)

	2015年度 見通し ^{※2}	2015年度 実績	見通し比	2014年度 実績	前年度比
制御機器事業 (IAB)	3,380	3,360	△0.6%	3,318	+1.2%
電子部品事業 (EMC)	1,040	1,037	△0.3%	1,039	△0.3%
車載事業 (AEC)	1,400	1,400	±0%	1,379	+1.5%
社会システム事業 (SSB)	775	775	±0%	804	△3.6%
ヘルスケア事業 (HCB)	1,070	1,081	+1.0%	1,006	+7.5%
本社直轄事業 (その他事業)	640	630	△1.5%	874	△27.9%
本社他 (消去調整含む)	45	53	+18.0%	53	+2.6%
合計	8,350	8,336	△0.2%	8,473	△1.6%

※1 バックライト(本社直轄事業)、パワコン(本社直轄事業、社会システム事業)、オイル&ガス(制御機器事業)

※2 2016年1月28日開示

事業セグメント別 営業利益

バックライト事業、パワコン事業では収益構造改革を実施

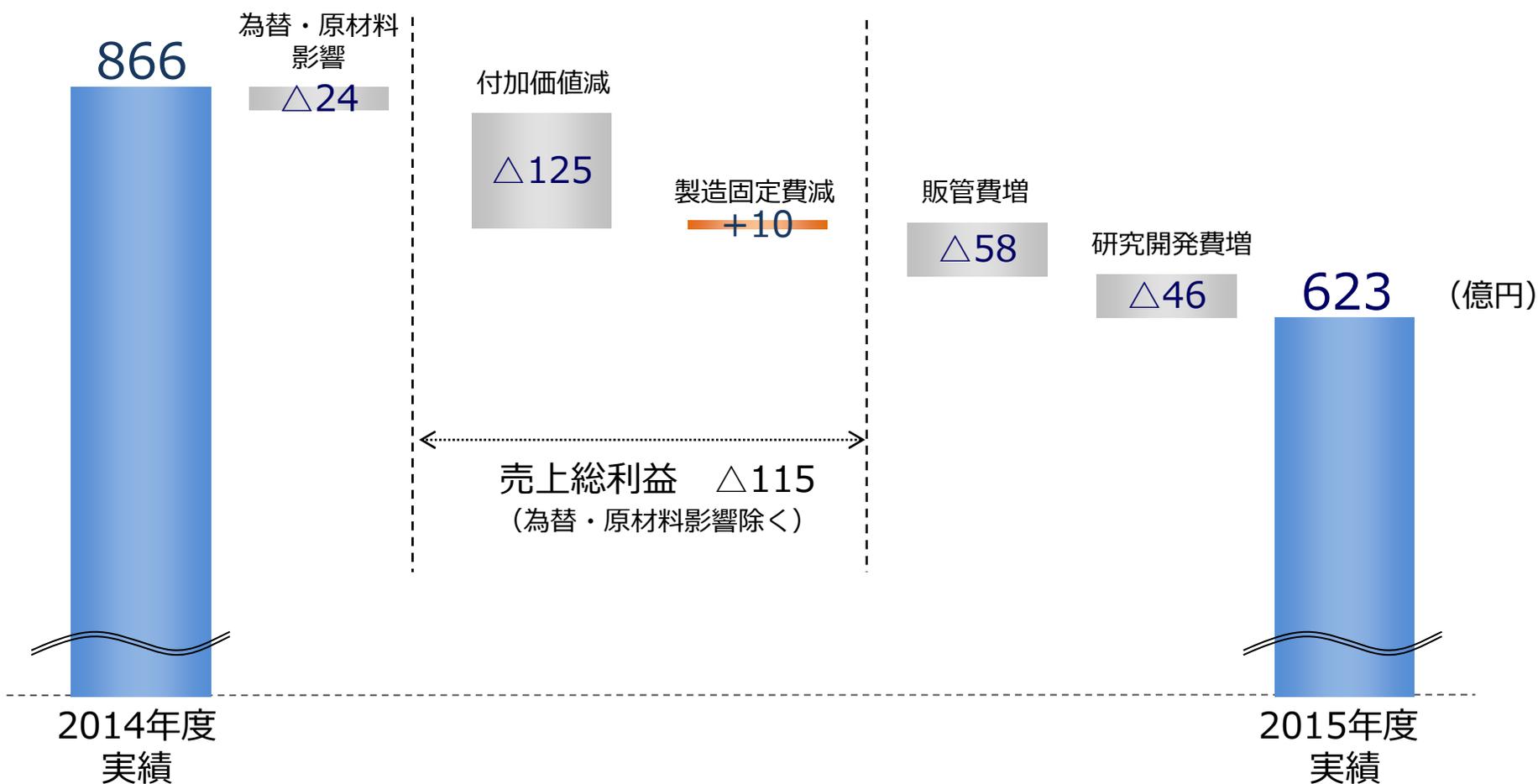
(億円、% : 営業利益率)

	2015年度 見通し※	2015年度 実績	見通し差	2014年度 実績	前年度差
制御機器事業 (IAB)	500 (14.8%)	479 (14.3%)	△21 (△0.5P)	546 (16.5%)	△67 (△2.2P)
電子部品事業 (EMC)	80 (7.7%)	85 (8.2%)	+5 (+0.5P)	102 (9.8%)	△17 (△1.6P)
車載事業 (AEC)	75 (5.4%)	73 (5.2%)	△2 (△0.1P)	92 (6.7%)	△19 (△1.4P)
社会システム事業 (SSB)	32 (4.1%)	32 (4.1%)	±0 (±0P)	50 (6.2%)	△18 (△2.1P)
ヘルスケア事業 (HCB)	70 (6.5%)	73 (6.7%)	+3 (+0.2P)	65 (6.5%)	+8 (+0.3P)
本社直轄事業 (その他事業)	△45 (-)	△41 (-)	+4 (-)	84 (9.6%)	△125 (-)
本社他 (消去調整含む)	△92	△78	+14	△73	△5
合計	620 (7.4%)	623 (7.5%)	+3 (+0.1P)	866 (10.2%)	△243 (△2.7P)

※2016年1月28日開示

営業利益増減 (前年度比)

M&Aの実行により販管費が増加。成長目的の研究開発費を増額。



連結貸借対照表

(億円)

	2015年3月末	2016年3月末	前年度末差
流動資産	4,341	3,896	△445
有形固定資産	1,515	1,466	△49
投資その他の資産	1,255	1,472	+217
資産の部合計	7,110	6,833	△277
流動負債	1,768	1,627	△141
固定負債	422	736	+315
負債の部合計	2,189	2,363	+174
株主資本	4,898	4,447	△451
非支配持分	23	23	±0
純資産の部合計	4,921	4,470	△451
負債及び純資産合計	7,110	6,833	△277
株主資本比率	68.9%	65.1%	△ 3.8P

連結キャッシュ・フロー計算書

M&Aの実行により投資CFが増加したが、FCFはプラスを確保

(億円)

	2014年度 実績	2015年度 実績	前年度差
営業活動によるキャッシュ・フロー (営業CF)	771	842	+72
投資活動によるキャッシュ・フロー (投資CF)	△395	△671	△276
フリー・キャッシュ・フロー (FCF)	375	171	△204
財務活動によるキャッシュ・フロー (財務CF)	△293	△316	△22
期末の現金残高	1,026	829	△197
設備投資	381	369	△13
減価償却費	283	315	+31

経営指標

ROICは9.7%、ROEは10.1%を確保

	2014年度 実績	2015年度 実績	前年度比・差
売上高 (億円)	8,473	8,336	△1.6%
売上総利益率	39.3%	38.5%	△0.8P
営業利益率	10.2%	7.5%	△2.7P
ROIC	13.4%	9.7%	△3.7P
ROE	13.5%	10.1%	△3.4P
EPS (円)	283.9	219.0	△64.9
USDレート (円)	110.0	120.2	+10.2
EURレート (円)	138.7	132.2	△6.5

2016年度計画

2016年度計画



エリア別 事業環境認識

グローバル経済は緩やかな改善を見込むものの、 中国の成長鈍化、円高など、外部環境は引き続き厳しい

<国内>

自動車を中心に大手企業での設備投資需要は徐々に回復。

但し、円高の影響による企業業績の悪化で経済の下ブレリスクあり。

<海外>

米州 : 米国は個人消費や設備投資の拡大など総じて堅調継続。

一方、原油安の影響により原油関連投資の減速が継続。

欧州 : 全体としては横ばい。ロシア・東欧は一部エリアで底打ち感あるも、
景気低迷は継続。

中国 : 構造改革の本格化や過剰設備問題などで経済成長は鈍化。

一方、インフラ投資は堅調を維持。住宅販売や個人消費は底堅い。

アジア : タイ、インドネシアは公共投資や政府の景気刺激策が下支えするものの、
輸出の持ち直しが遅れ、全体としては横ばい。

2016年度方針

**“収益構造の再構築” と
“自走的な成長のためのエンジン作り”**

事業成長の加速

- ・ 制御機器事業
- ・ ヘルスケア事業

事業構造の変革

- ・ バックライト事業
- ・ パワコン事業

事業セグメント別 事業環境認識

制御機器事業 (I A B)	<p>国内：自動車は北米向け投資が拡大。半導体は横ばい。 海外：中国は不透明感継続。アジアは通貨安の影響で軟調継続。欧州は横ばい。 米州は自動車が堅調継続も、原油関連は低調継続。</p>
電子部品事業 (E M C)	<p>家電：中国でのエアコンの在庫調整は進むが、市場は軟調継続。 車載：中国、北米、欧州は堅調継続。</p>
車載事業 (A E C)	<p>国内：昨年度の軽自動車増税の影響が一巡するが、地震の影響もあり不透明。 海外：北米は堅調継続。中国は経済成長が減速も、自動車減税により堅調継続。</p>
社会システム事業 (S S B)	<p>駅務：更新需要の一巡により減速。 環境：太陽光発電市場は低調継続。エネルギー使用合理化市場は拡大。</p>
ヘルスケア事業 (H C B)	<p>国内：生活習慣病患者の増加や健康志向の高まりにより、堅調継続。 海外：アジアを中心とした新興国は健康志向の高まりにより、需要が拡大。</p>
本社直轄事業 (その他事業)	<p>環境：パソコンの需要は低調継続も、蓄電システムは拡大。 バックライト：スマホ市場の成長が鈍化。</p>

2016年度計画

売上総利益率を改善し、増益に拘る

(億円)

	2015年度 実績	2016年度 計画	前年度比	前年度比 (為替影響除く※)
売上高	8,336	8,200	△1.6%	+4%
売上総利益 (売上総利益率)	3,208 (38.5%)	3,220 (39.3%)	+0.4% (+0.8P)	+7% (+1.1P)
営業利益 (営業利益率)	623 (7.5%)	630 (7.7%)	+1.1% (+0.2P)	+23% (+1.2P)
当社株主に帰属する 当期純利益	473	475	+0.4%	+19%
USDレート (円)	120.2	110.0	△10.2	
EURレート (円)	132.2	125.0	△7.2	

※ 2016年度計画の為替レートを基準にして算出

事業セグメント別 売上高

本社直轄事業は回復基調へ

(億円)

	2015年度 実績	2016年度 計画	前年度比	前年度比 (為替影響除く)
制御機器事業 (IAB)	3,360	3,360	±0%	+5%
電子部品事業 (EMC)	1,037	1,000	△3.6%	+3%
車載事業 (AEC)	1,400	1,300	△7.1%	+1%
社会システム事業 (SSB)	775	700	△9.7%	△10%
ヘルスケア事業 (HCB)	1,081	1,080	±0%	+7%
本社直轄事業 (その他事業)	630	710	+12.6%	+17%
本社他 (消去調整含む)	53	50	△5.7%	△6%
合計	8,336	8,200	△1.6%	+4%

事業セグメント別 営業利益

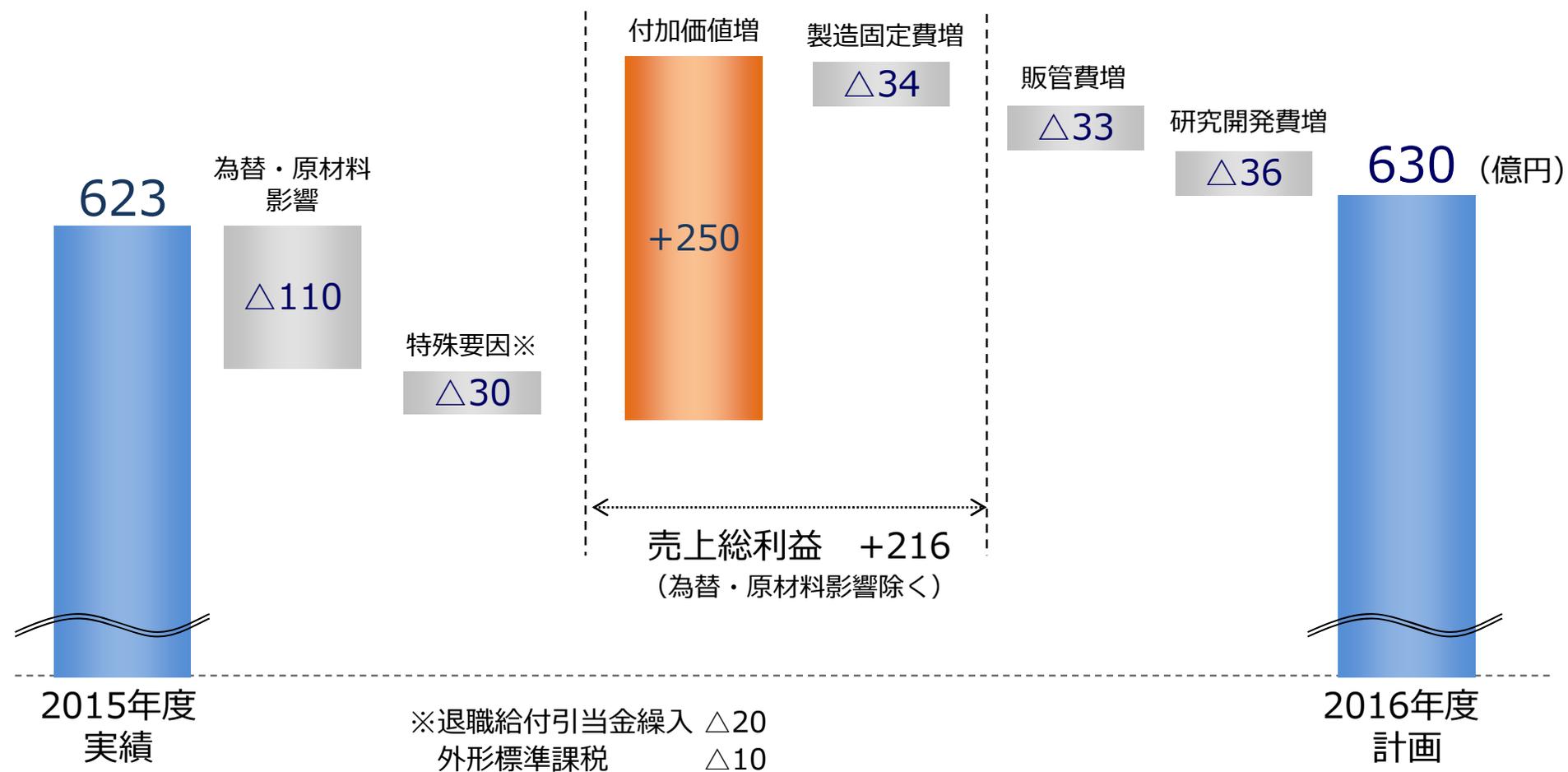
本社直轄事業は黒字化

(億円、%：営業利益率)

	2015年度 実績	2016年度 計画	前年度差	前年度比	前年度比 (為替影響除く)
制御機器事業 (I A B)	479 (14.3%)	465 (13.8%)	△14 (△0.4P)	△3.0%	+11%
電子部品事業 (EMC)	85 (8.2%)	100 (10.0%)	+15 (+1.8P)	+17.7%	+53%
車載事業 (A E C)	73 (5.2%)	65 (5.0%)	△8 (△0.2P)	△11.5%	+16%
社会システム事業 (S S B)	32 (4.1%)	40 (5.7%)	+8 (+1.6P)	+25.1%	+25%
ヘルスケア事業 (H C B)	73 (6.7%)	80 (7.4%)	+7 (+0.7P)	+9.8%	+19%
本社直轄事業 (その他事業)	△41 (-)	15 (2.1%)	+56 (-)	-	-
本社他(消去調整含む)	△78	△135	△57	-	-
合計	623 (7.5%)	630 (7.7%)	+7 (+0.2P)	+1.1%	+23%

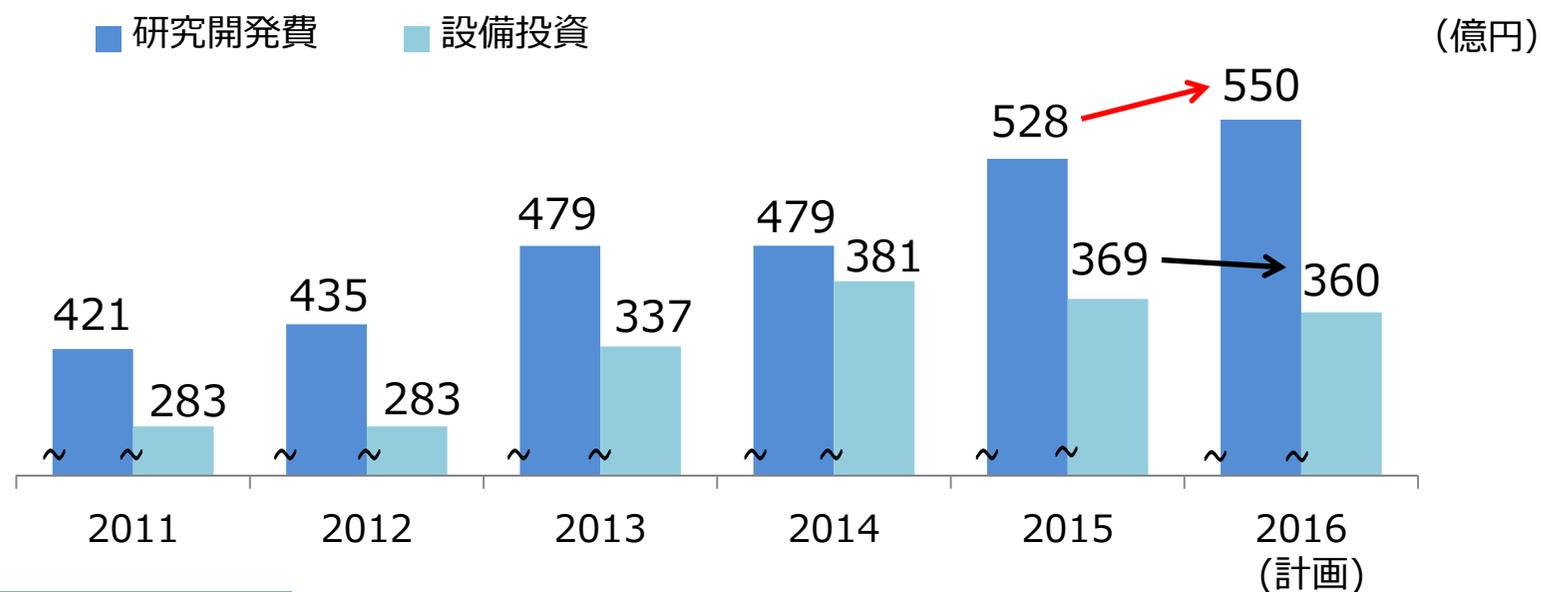
営業利益増減（前年度比）

付加価値の増加により、増益を確保



研究開発費、設備投資

研究開発費は将来に向けた成長のため増額。
設備投資は減額するものの、減価償却費を上回る投資を継続。



研究開発費

制御機器事業 ↑、ヘルスケア事業 ↑、コア技術領域 ↑

設備投資

制御機器事業 ↑、IT投資 ↑、バックライト事業 ↓

経営指標

売上総利益率は39.3%に引き上げる。ROIC、ROEは10%以上を目指す。

	2015年度 実績	2016年度 計画
売上高 (億円)	8,336	8,200
売上総利益率	38.5%	39.3%
営業利益率	7.5%	7.7%
ROIC	9.7%	10%
ROE	10.1%	10%
EPS (円)	219.0	222.2
USDレート (円)	120.2	110.0
EURレート (円)	132.2	125.0

1株あたり配当

2016年度も配当性向30%をコミットし、年間配当額予想は68円

	2015年度	2016年度 予想
年間配当	68円	68円
配当性向	31.1%	30.6%

※2016年度の間、期末配当は未定とする

※当期純利益が増減した場合は、年間配当をスライドアップまたはスライドダウンさせる

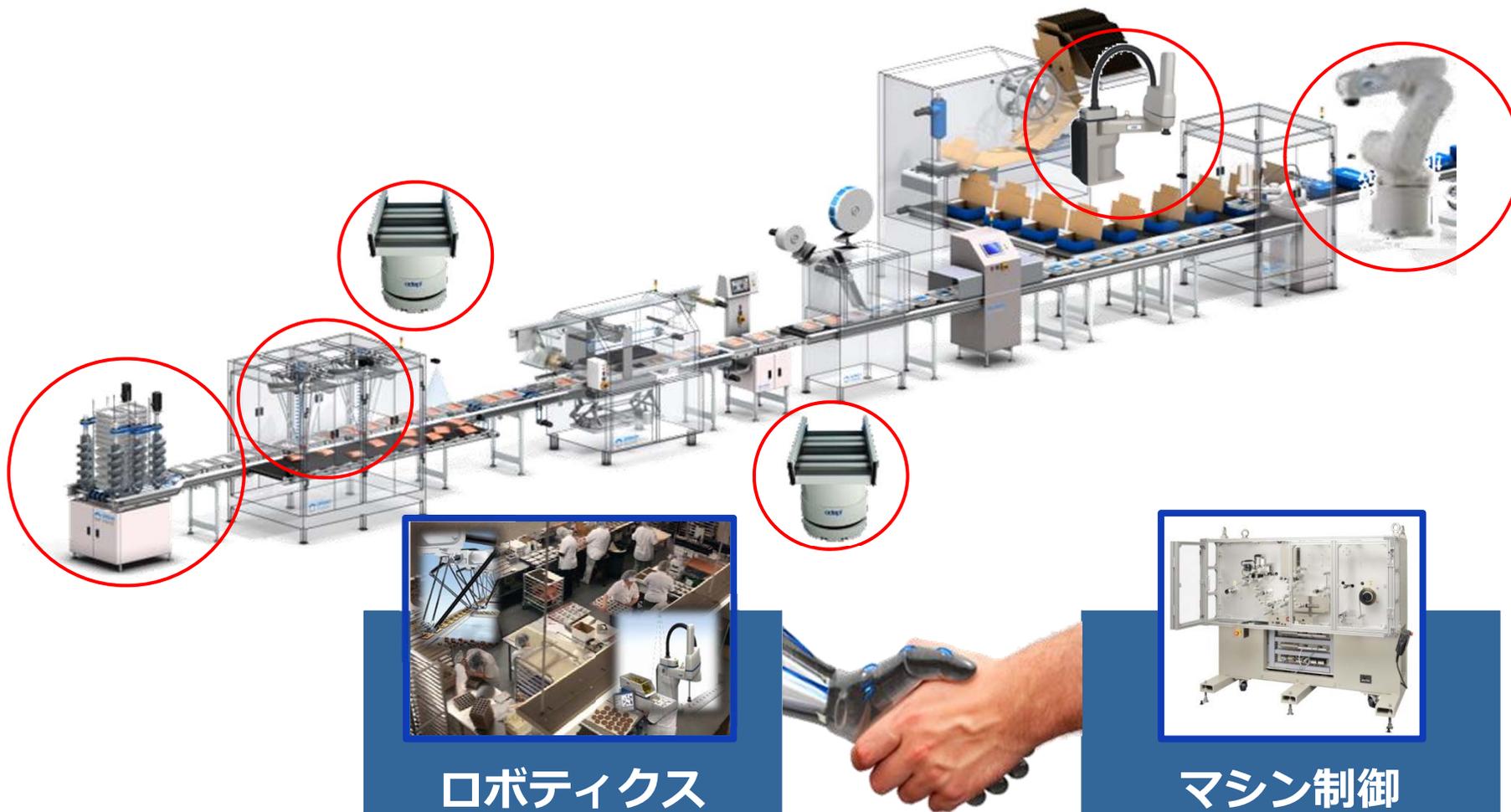
制御機器事業の中長期成長戦略

制御機器事業の中長期成長戦略



オムロンユニークなオートメーションの創造

ロボティクスとマシン制御を融合させたユニークなオートメーションの創造



ロボティクス

マシン制御

i-Automationによるモノづくりの革新

3つの“i”で、モノづくりを革新

コンセプト

i-Automation

オムロンユニークなInnovationによるモノづくりの革新

進化の方向性

制御進化

integrated

知能化

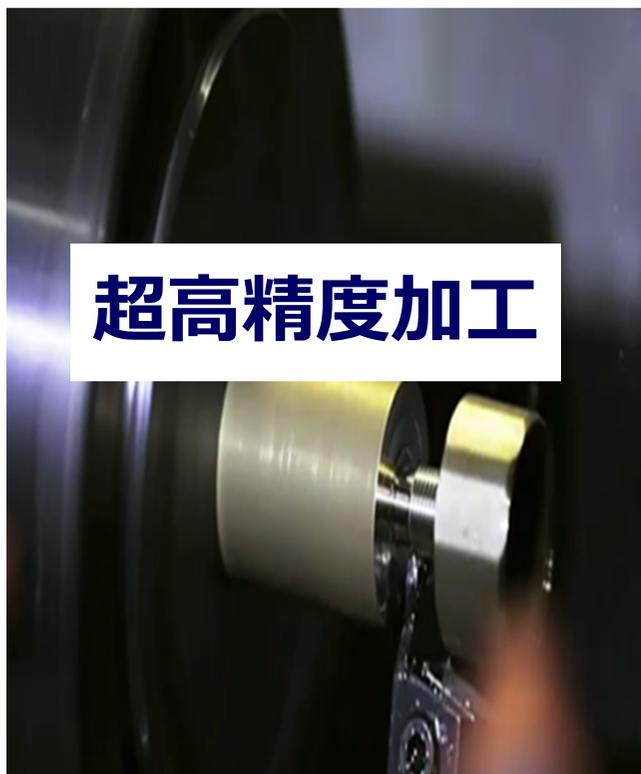
intelligent

人と機械の新しい協調

interactive

integrated-制御進化- 目指す世界

「匠の技」を革新的なオートメーションで極めて簡単に実現



integrated-制御進化- Why Omron?

「ILOR+S」を強烈に摺合せ、革新的なオートメーションを簡単に実現

アプリケーションパッケージ

Robot



Input



Logic



Output



One Controller

Safety



integrated-制御進化- 目指す価値創造に向けて

One Controllerにつながる49モデルのロボットを全世界同時発売

パラレル



スカラ



6軸



コントローラー(NJ)+アプリケーションパッケージ

OMRON

参考資料

参考資料



為替・原材料前提

直近の為替、原材料の推移を考慮して、2016年度の前提を決定

■ 2016年度前提

為替

USD . . . 110円

EUR . . . 125円

1円変動による影響額（通期）

	売上高 影響額	営業利益 影響額
USD	約35億円	約3億円
EUR	約9億円	約5億円

原材料

銀 . . . 61,000円/kg

銅 . . . 650円/kg

価格変動による影響額（通期）

	変動額	営業利益 影響額
銀	1,000円/kg	約0.7億円
銅	10円/kg	約0.4億円

※ 新興国通貨等がUSD、EURに想定通り連動しなかった場合、営業利益の感応度に影響を与える

ROIC逆ツリー展開

現場



KPI

改善ドライバー

注力業界/エリア 売上
 新商品/注力商品 売上
 売価コントロール
 変動費CD額・率
 失敗コスト率

一人当り生産台数
 自動化率 (省人数)

売上高人件費率

在庫月数
 不動産在庫月数
 債権/債務月数

設備回転率
 (1/N自動化率)

売上総利益率

付加価値率

製造固定費率

販管費率
 R&D率

運転資金回転率

固定資産回転率

ROS

投下
 資本
 回転率

ROIC

ROICの計算式

＜連結貸借対照表＞

科目	年 月 末
資産の部	
流動資産	
...	
...	
有形固定資産	
...	
投資その他の資産	
...	
負債の部	
流動負債	
短期債務	
...	
...	
純資産の部	
株主資本	
...	
...	
...	
純資産の部合計	
負債及び純資産合計	

$$ROIC = \frac{\text{当期純利益}}{\text{投下資本}}$$

$$\text{投下資本} = \text{純資産} + \text{有利子負債}$$

※投下資本は、前期末実績および当該期の各四半期毎の実績または見通しを平均して算出

2014～2016年度における想定資本コスト：6%

<注意事項>

1. 当社の連結決算は米国会計基準を採用しています。
2. 業績予想などは、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまなリスクや不確定な要素などの要因により、異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、平成28年3月期決算短信のP6「1. 経営成績・財政状態に関する分析（1）経営成績に関する分析②次期の見通し」をご参照ください。

3. 当資料は「平成28年3月期決算短信」に準拠し作成しています。
差額、比率については百万円単位で計算し、四捨五入しています。

<IRに関するお問い合わせ>

オムロン株式会社

グローバルIR・コーポレートコミュニケーション本部
経営IR部

電話 : 03-6718-3421

E-mail : omron_ir@omron.co.jp

HPアドレス : www.omron.co.jp